

第1章 計画の策定

1 計画策定の趣旨

現在、人口減少、少子高齢化、核家族化の進行や経済情勢、雇用情勢の変化など社会構造が大きく変化するとともに、国際化・情報化の進展、科学技術の進歩、地球環境問題の深刻化などにより、教育が担うべき役割や範囲が高度化、多様化しています。

また、児童生徒の規範意識や道徳心、自立心の低下によるいじめや不登校などの問題が発生しているほか、近隣住民間の連帯意識の希薄化、世代間交流の減少により、人と人との交流や様々な活動、経験を通じた豊かな人間関係を築くことが難しくなっています。

本市では、平成22年10月に「高山市教育振興基本計画」を策定し、学校・家庭・地域・行政等がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携して、未来を拓く子どもたちを社会全体ではぐくむ教育の推進や、誰もが生涯にわたって学ぶことができ、学んだ成果や知識を地域課題の解決などの地域づくりに還元する「知の循環型社会」の構築に取り組んできました。

そして、平成27年3月には、こうした「高山市教育振興基本計画」の基本的な考え方を引き継ぎつつ、それまでの生涯学習振興計画及びスポーツ振興基本計画を包含する「第2期高山市教育振興基本計画」を策定し、教育に関する各種施策を総合的に推進してきました。

平成31年度末で現行計画の計画期間が終了するため、新たな国の教育振興基本計画、岐阜県教育ビジョン、高山市第八次総合計画や高山市教育大綱と整合を図りながら、昨今の社会情勢の変化等に対応する「第3期高山市教育振興基本計画」を策定します。

2 計画の位置付け

○教育基本法、社会教育法、スポーツ基本法、文化財保護法及び文化芸術振興基本法に基づく計画とします。

○教育、生涯学習、スポーツ、歴史文化、文化芸術の観点から人づくりの根幹を支える計画です。

○教育の総合的かつ計画的な推進を図るため、目標や基本的方向を明らかにする計画です。

3 計画期間

計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

4 現状と課題

(1) 国の動向

国においては、教育基本法第17条第1項の規定に基づき平成30年6月に策定した第3期の「教育振興基本計画」の中で、次の5項目を今後の教育政策に関する基本的な方針としています。

- ①夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力を育成する
- ②社会の持続的な発展を牽引するために多様な力を育成する
- ③生涯学び、活躍できる環境を整える
- ④誰もが社会の担い手となるための基盤を整備する
- ⑤教育政策推進のための基盤を整備する

「スポーツ基本法」に基づき平成29年度に策定された「第2期スポーツ基本計画」では、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出するため、年齢や性別、障がい等を問わず、スポーツに参画することができる環境を整備することを基本的な政策課題とし、「1億総スポーツ社会」の実現に取り組むこととしています。

歴史文化に関しては、平成31年4月に施行された文化財保護法の改正により、文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要とされ、そのために地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や地方文化財保護行政の推進力の強化が掲げられています。

文化芸術に関しては、平成13年12月に制定された「文化芸術振興基本法」が平成29年6月に「文化芸術基本法」に改められ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業など、各関連分野との有機的な連携を図るとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を、文化芸術の継承、発展及び創造につなげる取り組みを推進することとしています。

(2) 県の動向

岐阜県においては、「第3次岐阜県教育ビジョン」を平成31年3月に策定し、岐阜県で生まれ育った子どもたちが、「ふるさと岐阜への誇りと愛着を持ち続けながら、清く、優しく、たくましく生きていこうとする心(清流スピリット)」を持ち続け、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりして、「地域社会人」として活躍し、「清流の国ぎふ」を担うことができるよう、岐阜県ならではの自然・歴史・文化・産業・人材などの多様な地域力「オール岐阜」により、「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」を目指しています。

平成29年度に改定された「岐阜県生涯学習振興指針」では、東日本大震災

や熊本地震からの復興において、地域住民による支え合いといった地域の「絆」や地域コミュニティの必要性・重要性が再認識され、地域の課題について学び、その解決のために行動することへの関心やニーズの高まりから、一人ひとりの学びを充実させ、学びの成果を地域づくりに活かす取組みを促進するため、「地域で活躍する人づくり」、「地域の絆とコミュニティの再構築」を改訂の趣旨とし、「～「地域づくり型生涯学習」の推進による「清流の国ぎふ」づくり～」を進めることとしています。

平成31年3月に策定された「教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する大綱」では、「スポーツの振興、健康・体力づくりの推進」を基本方針に掲げ、地域スポーツ、レクリエーション、競技力向上、健康・体力づくり、スポーツを通じた地域振興の推進のほか、障がいのあるなしに関わらずスポーツに親しめる環境づくりを図ることとしています。

平成19年6月に「岐阜県文化振興指針」が策定され、平成20年7月に制定された「岐阜県文化芸術振興基本条例」では、心豊かな県民生活及び活力にあふれた地域社会の実現に寄与することを目的とした文化芸術の推進を掲げています。

(3) 高山市の現状・課題

<学校教育>

現状（取り組み）

- ・本市には、19の小学校及び12の中学校があり、それぞれ約4,600人の児童及び約2,400人の生徒が学んでいますが、過去5年間で児童が約400人、生徒が約500人減少しています。
- ・児童生徒の生徒指導上の問題行動（いじめ・インターネットトラブル等）の未然防止に取り組んでいるところですが、インターネット端末等の使用についての情報モラルは、今後ますます重要です。
- ・不登校児童生徒の割合は、全国平均を下回っているものの、年々微増の傾向にあり、適応指導教室の全市的展開について検討を始めています。
- ・年々増えている外国籍の子どもが安心して就学できるために、保健相談員等の支援員を配置しています。
- ・令和2年度から全小中学校がコミュニティスクールとなり、学校・家庭・地域が協働して子どもを育ていく環境が向上します。
- ・新学習指導要領の完全実施により、プログラミング教育等ICT機器を活用した学習が必要です。
- ・学校施設の学習環境の保全と安全性や利便性の向上のため、校舎等の改修を計画的に進めており、施設のバリアフリー化や環境性能の向上などにもあわせて取り組んでいます。

●第2期計画の目標達成状況

指	標	計画策定時 (H25)	目標値 (H31)	実績値 (H30)
市民満足度 指標	「学校・家庭・地域が連携した児童生徒の教育環境が整っている」と感じている市民の割合	63.9% (H26)	↗	63.7% (H31)
成果・活動 指標	学校の授業が分かる児童生徒の割合	小 92.1% 中 77.0%	100%	小 88.6% 中 77.5%
	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小 83.2% 中 74.1%	100%	小 87.2% 中 74.1%
	今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小 78.9% 中 72.3%	100%	小 79.9% 中 71.2%
	小中学校校舎の非構造部材耐震化率	42.2%	60%	55.4%

●学力、学習の状況

<平成31年度全国学力・学習状況調査での全国平均との比較>

	国語・算数（数学）	生活の実態
小学校	25%の項目で上回る	88%の項目で上回る
中学校	85%の項目で上回る	77%の項目で上回る

資料：文部科学省、高山市教育委員会

課題

- ・目まぐるしく変化する社会にあって、子どもたちが自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、解決する資質や能力が求められています。
- ・いじめ・不登校など、様々な状況に置かれている子どもたちすべてに対して、それぞれのニーズに応じた学びの保証が必要です。
- ・地域による見守りと学習支援、伝統行事への子どもの参加など、学校と地域等が連携・協働し、学校と子どもの抱える課題や地域の抱える課題の解決を図ることにより、学校づくりが地域づくりに、地域づくりが学校づくりになるような取り組みが求められています。
- ・児童生徒数の減少や施設の老朽化、情報通信技術の著しい進展など学校教育を取り巻く環境が変化する中で、子どもたちにとってよりよい学習環境を将来にわたって整えていく必要があります。

<生涯学習>

現状（取り組み）

- ・家庭や地域で子育てを学ぶ機会が少なくなっています。
- ・子どもの夢や創造力を伸ばし、地域への誇りが持てるよう直接体験できる機会（子ども夢創造事業）の充実が図られています。
- ・子ども体験教室や野外活動など、学校・家庭・地域・行政等が協働・連携した様々な体験活動が行われています。
- ・公民館を利用しながら趣味や教養を高めるために自主的に活動する登録団体が約200団体となっています。
- ・市図書館「煥章館」は平成16年の開館以来、15周年を迎え、毎年延べ40万人を超える利用があります。
- ・地域課題の解決を図り、安全で安心して暮らせる地域を目指す協働のまちづくり（注1）の取り組みが市内全地区ですすめられています。

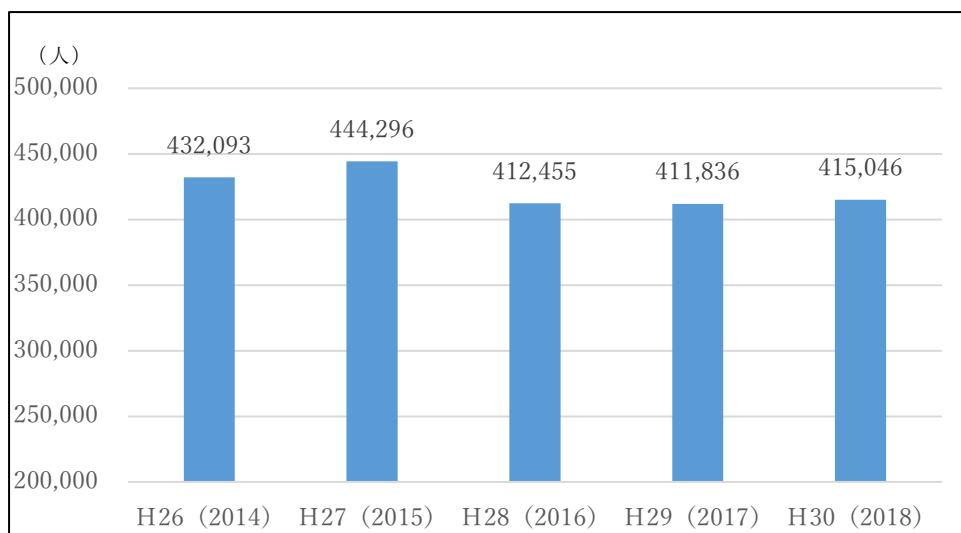
（注1）協働のまちづくり

市民が主役という理念のもと、地域社会を構成する多様な主体（市民、地域住民組織、事業者、行政など）がお互いの存在意義を認識し、尊重し合い、お互いの持てる能力を発揮し、ともに手を携えて、まちづくり（課題解決）に取り組むこと。

●第2期計画の目標達成状況

指	標	計画策定時 (H25)	目標値 (H31)	実績値 (H30)
市民満足度 指標	「生涯学習に取り組む機会や学習成果を活かすことができる環境が整っている」と感じている市民の割合	44.3% (H26)	↗	39.6% (H31)
成果・活動 指標	生涯学習講座参加者数（年間）	649人	1,100人	1,328人
	家庭教育に関する各種学習機会への参加者数（年間）	37,563人	38,000人	47,314人
	まちづくり活動の実践講座への参加者数（年間）	-	60人	160人
	図書館来館数（年間）	465,506人	470,000人	415,046人

● 図書館来館者数の推移



資料：高山市

課題

- ・誰もが生涯に渡って学び、社会で活躍できる生涯学習の必要性が高まっています。
- ・地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、地域と学校が協働した活動が求められています。
- ・地域課題の解決などに向けた活動への若者の参画や、女性が社会で活躍することができる環境づくりが求められています。
- ・自ら学んだ成果を地域課題の解決や地域の魅力づくりに活かしながら、地域コミュニティの維持・強化を図る取り組みが求められています。

<スポーツ>

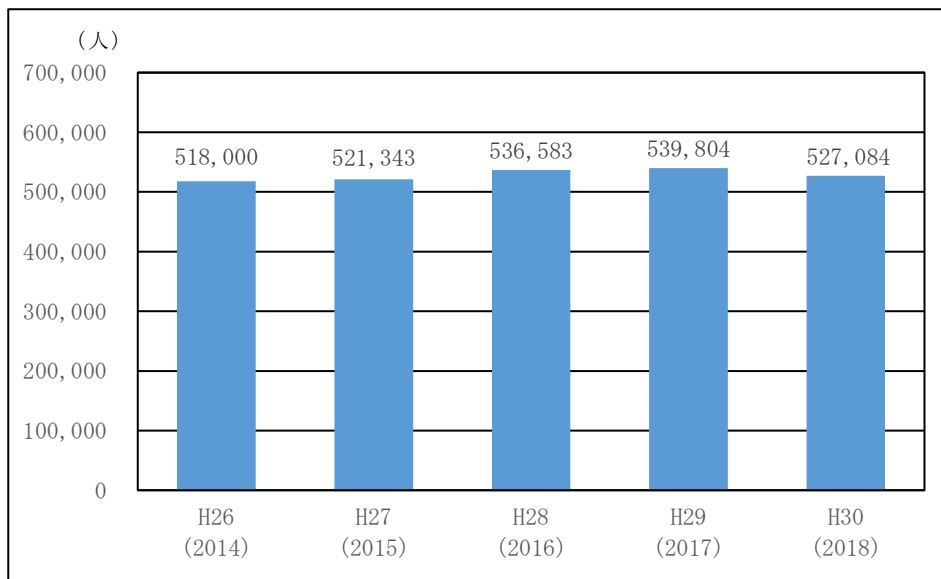
現状（取り組み）

- ・本市には、62の市有スポーツ施設があります。
- ・指定管理者制度や予約管理システムによる利用者の利便性の向上を図っており、毎年延べ50万人を超える利用があります。
- ・スポーツ推進委員会、(一財)高山市体育協会等の関係団体により、地域及び全市的なスポーツ活動が行われており、スポーツの普及振興、市民の健康づくりの一翼が担われています。
- ・飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの利用者は年々増加しており、毎年、高山市のエリアでは延べ1万8千人に近い利用が、エリア全体では3万人近くの利用があります。

●第2期計画の目標達成状況

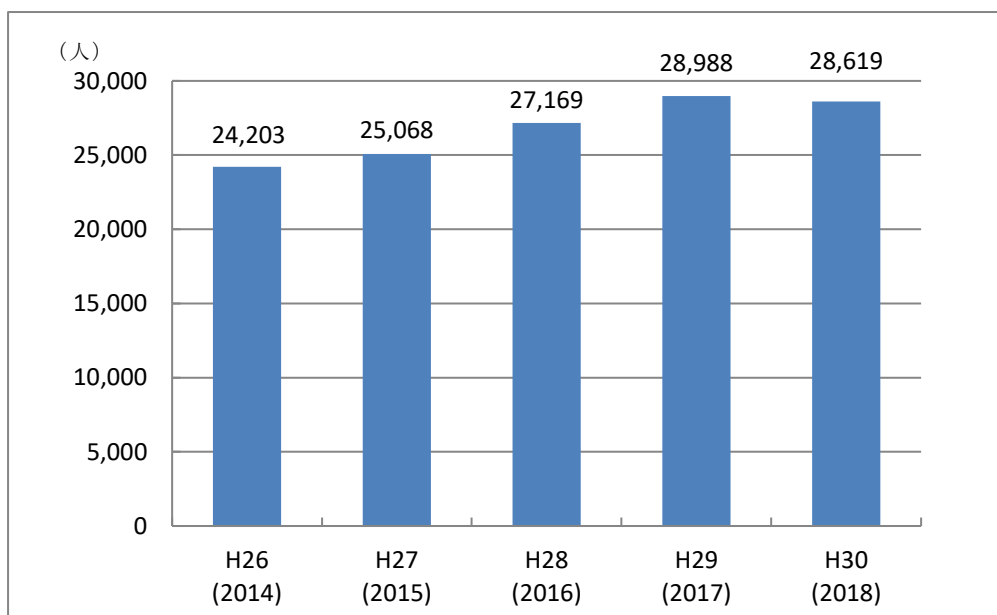
指	標	計画策定時 (H25)	目標値 (H31)	実績値 (H30)
市民満足度 指標	「スポーツをしたり、楽しんだりできる環境が整っている」と感じている市民の割合	48.6% (H26)	↗	47.5% (H31)
成果・活動 指標	スポーツ施設利用者数（年間）	509,806人	550,000人	527,084人
	成人の週1回以上のスポーツ実施率 （アンケート調査）	37.0% (H19)	65%	31.2% (H31)
	国際・全国大会出場者数（年間）	218人	250人	300人
	ブロック（中部・東海等）レベル以上の 大会開催数（年間）	12大会	15大会	10大会
	高地トレーニングエリア施設利用者数 高山市エリア（年間）	14,819人	20,000人	16,737人

●スポーツ施設利用者数の推移



資料：高山市

●飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア合宿利用者数の推移
エリア全体（高山市、下呂市）

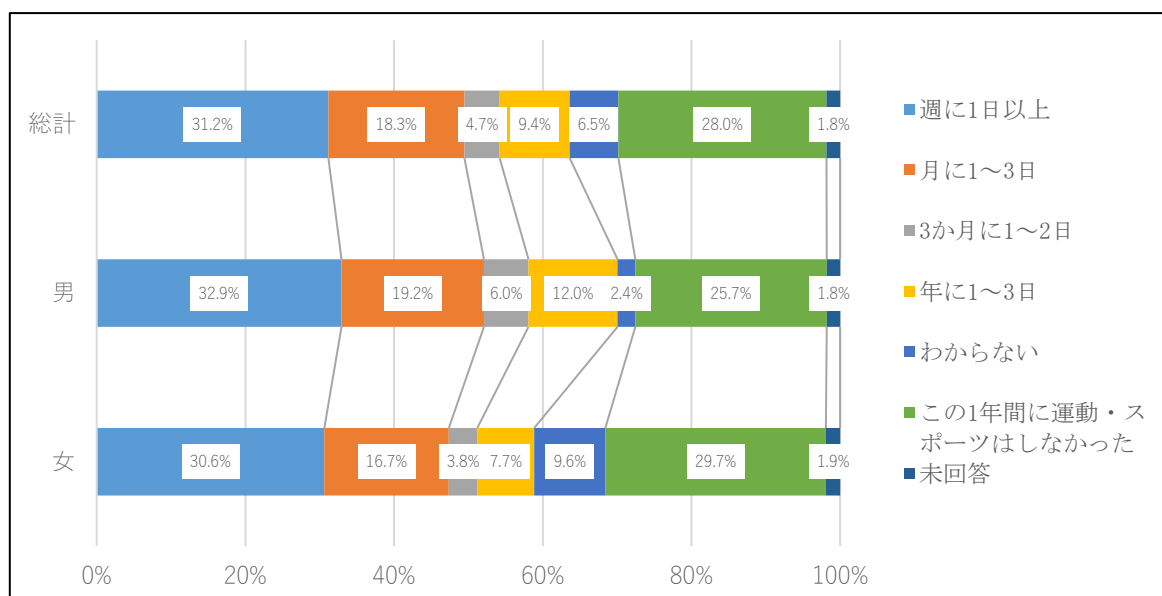


資料：高山市

課題

- ・健康志向の高まりや全国大会への出場者が増加する中、スポーツを通じた健康づくりや競技力の向上が図られる機会の提供が求められています。
- ・軽スポーツなどの新しい競技種目の普及やスポーツ施設の整備など、多様化する利用者ニーズに応えるスポーツ環境の充実が求められています。
- ・スポーツツーリズムなど、様々な人々との交流による地域振興の推進が求められています。
- ・高地トレーニングエリアのさらなる利用促進と、エリアの活性化が求められています。

●成人のスポーツ実施率



<歴史文化>

現状（取り組み）

本市には、国指定38件、県指定118件、市指定780件の計936件の指定文化財のほか、国選定重要伝統的建造物群保存地区が2地区、国登録有形文化財が18件あります。

その内、有形文化財は563件、無形文化財が8件、民俗文化財が76件、記念物は289件となっています。

平成28年に「飛騨匠の技・こころ」が日本遺産に、「高山祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に認定されています。

文化財等が観光資源として地域経済の活性化や飛騨高山のブランド力向上に大きく貢献しています。

歴史的な町並みや伝統的な祭礼などの歴史遺産や伝統文化は、これまで地域住民の活動を中心に維持されてきましたが、過疎化や少子高齢化、人口減少などにより保存と継承が困難となっている事例が生じています。

●第2期計画の目標達成状況

指	標	計画策定時 (H25)	目標値 (H31)	実績値 (H30)
市民満足度 指標	「文化財や伝承芸能が保存・継承され、郷土の歴史文化に誇りを持っている」と感じている市民の割合	75.7% (H26)	↗	75.7% (H31)
成果・活動 指標	美しいふるさとの認証団体数（累計）	52 団体	150 団体	131 団体
	重要伝統的建造物群保存地区内の修理・修景の実施済割合	58.7%	75%	68.3%
	歴史ガイドマスターの登録者数	-	20 人	0 人
	飛騨高山まちの博物館の来館者数（年間）	183,304 人	225,000 人	179,806 人

●指定・選定・登録文化財件数（平成31年4月1日現在）

文化財の種類		国指定		県指定	市指定	計
有形文化財	建造物	※1	14	15	78	107
	絵画			5	42	47
	彫刻		3	16	106	125
	工芸品	※2	3	7	60	70
	書跡			5	32	37
	典籍			1	7	8
	古文書				87	87
	考古資料		2	4	46	52
	歴史資料			3	27	30
無形文化財					8	8
民俗文化財	有形民俗文化財		4	4	38	46
	無形民俗文化財		2	8	20	30
記念物	史跡		4	16	105	125
	史跡・天然記念物			1		1
	名勝			1	10	11
	天然記念物		6	32	114	152
合計			38	118	780	936
伝統的建造物群保存地区			2			2
登録有形文化財			18			18
総計			58	118	780	956

※1・2 国宝1件を含む

課題

- ・人口減少による過疎化、少子高齢化などにより歴史遺産や伝統文化の保存と継承が困難となっていることに対する支援が求められています。
- ・平成28年に認定を受けた日本遺産やユネスコ無形文化遺産など歴史遺産や伝統文化の活用が求められています。
- ・多様な歴史遺産や伝統文化を次世代に残していくため、地域の歴史遺産や伝統文化に対する誇りと愛着を高める必要があります。

<文化芸術>

現状（取り組み）

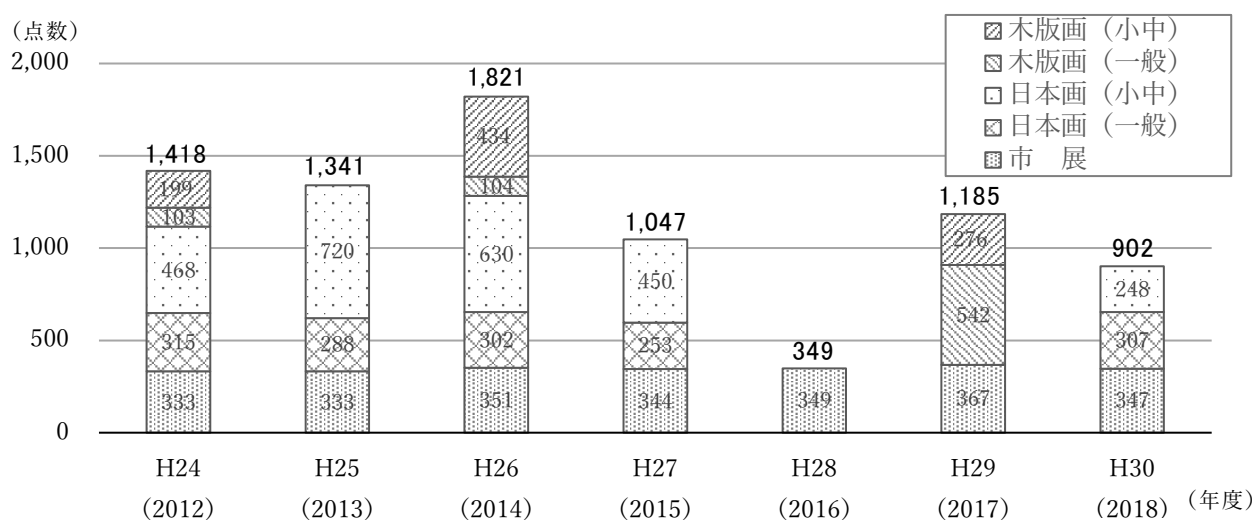
- ・文化芸術は、喜びや感動を与えてくれるだけでなく、私たちの創造力や感性を刺激し、豊かな人間性をはぐくんでいます。
- ・伝統的な文化芸術は、その地に暮らす人たちにとって、誇りや郷土愛、精神的な支えとなり、にぎわいのある元気なまちの礎になっています。
- ・飛騨高山国際現代木版画展や臥龍桜日本画大賞展の国内外公募展、高山市美術展覧会など、市の公募美術展に多くの作品が出品されています。
- ・市民が主役となる文化芸術の祭典「飛騨高山文化芸術祭（こだま〜れ）」を3年に一度、四季を通じて市内全域で開催しています。
- ・高山市民文化会館は毎年25万人を超える市民に利用されています。

●第2期計画の目標達成状況

指	標	計画策定時 (H25)	目標値 (H31)	実績値 (H30)
市民満足度指標	「文化芸術を鑑賞したり、活動が支援されて発表したりできる環境が整っている」と感じている市民の割合	56.3% (H26)	↗	57.4% (H31)
成果・活動指標	市の公募美術展への出品点数（年間）	1,341点	1,520点	902点
	文化施設利用者数（年間）	414,387人	462,000人	412,408人
	「文化芸術分野」の公民館登録団体数	168団体	180団体	142団体

●文化芸術活動への参加状況

市公募美術展への出品数の推移



資料：高山市

※飛騨高山現代木版画展は隔年開催（平成26年度以降は3年毎の開催）

臥龍桜日本画大賞展は平成27年度まで毎年開催（平成27年度以降は3年ごとの開催）

主な文化施設の利用状況の推移

単位：人

施設名		項目	H25	H26	H27	H28	H29	H30
市民文化会館	大ホール	利用者数	49,024	48,306	47,836	56,711	51,231	54,150
		増減率	-	-1.5%	-1.0%	18.6%	-9.7%	5.7%
	小ホール	利用者数	28,524	26,993	29,157	28,611	27,913	30,293
		増減率	-	-5.4%	8.0%	-1.9%	-2.4%	8.5%
	公民館	利用者数	140,513	145,536	139,981	138,291	139,576	139,021
		増減率	-	3.6%	-3.8%	-1.2%	0.9%	-0.4%
	その他	利用者数	40,040	42,090	40,155	38,091	41,936	40,817
		増減率	-	5.1%	-4.6%	-5.1%	10.1%	-2.7%
	施設計	利用者数	258,101	262,925	257,129	261,704	260,656	264,281
		増減率	-	1.9%	-2.2%	1.8%	-0.4%	1.4%
丹生川文化ホール		利用者数	23,348	23,470	25,088	23,460	20,805	22,270
		増減率	-	0.5%	6.9%	-6.5%	-11.3%	7.0%
文化伝承館		利用者数	2,515	3,023	2,914	2,626	2,270	2,236
		増減率	-	20.2%	-3.6%	-9.9%	-13.6%	-1.5%

資料：高山市

課題

- ・文化芸術活動を通じて人づくり、関係づくり、地域づくりを促進し、人々の心の豊かさとまちの元気を創出することが求められています。
- ・人口減少や少子高齢化などにより、地域固有の文化などの継承や創造が困難となっています。
- ・文化芸術活動を地域コミュニティの活性化や産業の振興などに波及させる取り組みが求められています。